



DOSANKO 活動報告

DOSANKO 活動報告

2019年4月～2020年3月

I 国外活動

(1) ネパール大地震支援活動

2015年4月の大地震後5年目の復興支援が、檜戸健次郎駐在員、現地ボランティアの前田紀子元ワーカー、ヒカモト氏、シャロン氏、ユブラジ氏により行われた。檜戸駐在員は5カ月をネパールで活動した。前田ワーカーは任期満了後もネパールでボランティアとして会計処理、会議への参加や日本への報告など、活動を支援してくれている。

・震災被害児童就学支援

震災で親を亡くした子どもたちが教育を受けられるよう、3カ月ごとに状況視察をしながら奨学金を手渡し、また交流会も開催している。しかし、3月23日からネパール国内で新型コロナウイルス感染拡大の予防措置で外出禁止令が発令され、年度末の活動は休止した。

ゴルカ郡、ダーディン郡、ラスワ郡、ヌワコット郡、シンドゥパルチヨーク郡、ドカラ郡の6歳から22歳の学校に通学する子を応援、支援額はその子の教育に必要な額をランク分けして月500ルピーから5000ルピー（1ルピー＝約1円）で行った。今年度は、新たな2名が加わり39名への支給を行った。そのうち2名は学校卒業にて奨学金支給を終了した。

・学校への救急箱設置

被災地の学校に応急処置用の救急箱を配置している。予定のシンドゥパルチヨーク郡、ドラカ郡、ゴルカ郡、ダーディン郡の9校に設置し、使用法や注意点など当会ネパール人看護師ボランティアよりオリエンテーションを行うという活動内容。初回から半年、もしくは1年後に再訪問し使用状況を確認。必要に応じて補充も実施した。

また、希望のあった学校に、三角巾の使用法のオリエンテーションを実施、配布した。

・職業訓練支援

ダーディン郡の縫製所での基礎裁縫研修（約6か月のコース）受講を支援している。支援は、全研修受講費や必要材料費の支給にて実施した。研修生は、受講期間中郡庁所在地に滞在する必要がある、生活費の一部も支給している。

2019年度は2名のダーディン郡山間部に住む女性（18歳、20歳）を支援した。

（2）ネパール公衆衛生活動

チョウジャリ病院公衆衛生部門の活動を支援した。予防接種、乳児健診、妊婦健診、学校健診、母親を集めての衛生教室、学校のトイレ、水飲み場づくり、煙突付かまどの普及活動、貧困児童への教育費補助、FMラジオ放送を使つての衛生教育など、多岐にわたる活動が、檜戸健次郎ネパール駐在員の指導のもと、病院公衆衛生部門スタッフにより行われた。また、地域での医療者育成のため、助産師1名を奨学金で支えた。

（3）ネパールスタディツアー

6名参加 11月4日から12日まで。チョウジャリ、被災地のゴルカ等を訪問した。

Ⅱ 国内活動

（1）東日本大震災支援

2011年より支援している気仙沼市階上地区のNPO法人「生活支援プロジェクトK」に大泉代表を2回派遣した。継続的にフォローしている住民の相談にのるとともに、今後の団体の活動の方向性について、ニーズや財政状況も踏まえてのアドバイスを行った。

（2）講演会、イベント

・フクシマ原発事故写真展「大地奪われし人々」6月17日～7月7日

トークショー 写真家 菊池和子さん6月23日

大泉代表「東日本大震災から学ぶこと」7月7日

於 アリオ札幌 くまざわ書店

総会講演にあわせてフクシマを撮り続ける写真家の菊池和子さんを招き、写真展、トークショーを開催した。

・北海道NGOネットワーク主催の国際協力フェスタ参加（12月21日）

（3）どさんこオープンハウス

4月 眼科医浦木のミャンマー活動記 担当 会員 浦木健彦さん

5月 チョウジャリ活動報告 担当 檜戸健次郎ネパール駐在員

8月 国際保健と災害看護 担当 大泉樹代表

9月 ウガンダ訪問記 担当 プランジャパンサポーター 松澤さん

10月 私のおススメの一冊 担当 参加者のみなさん

- 1 1月 スウェーデンの高齢者ケア 担当 天使大講師 渡辺さん
1 2月 ネパールスタディツアー報告 担当 スタディツアーメンバー
1 月 ネパールの日本語学校訪問記 担当 会員 内田さん
2月3月は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止

- (4) 会報「どさんこ」・年次報告・ホームページ・ブログ、フェイスブック
会報 121号～124号、年賀状を発送した。ホームページでは集まりやイベントのお知らせ、ブログでは活動現場の様子を中心に掲載し、フェイスブックにもリンクしている。また、寄付や会員の新規獲得のため、年次報告を作成した。



DOSANKO 活動計画 DOSANKO 活動計画

2020年4月～2021年3月

I 国外活動

(1) ネパール大地震支援活動

ネパール大地震後6年目となる2020年度も2019年度と同様の活動を檜戸健次郎駐在員、現地ボランティアの前田紀子氏、ヒカモト氏、シャロン氏、ユブラジ氏により続けていく。震災被害児童就学支援は、初めに支援した児童が高校を卒業するまで、概ね2026年度まで続けることになっている。

(2) ネパール公衆衛生活動

引き続きチョウジャリ病院公衆衛生部門への活動を支援する。今年度は准医師かそれに準ずる医療技術者になることを希望する奨学生1名を支援する予定。

(3) 研修生受け入れ・スタディツアー

今後、海外協力を志す医療従事者や学生に、チョウジャリ病院や系列の病院での研修の機会を提供する。

ネパールスタディツアーは、新型コロナウイルス感染症のため未定。可能なら11月7日～14日で、チョウジャリ病院訪問の旅程。実施の場合はメーリングリストにて参加募集を行う。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

ネパールでの新型コロナウイルス感染症拡大に際して、チョウジャリ病院並びに、同院を運営するNGO「HDCS」の他病院での感染対策のための薬品、備品、人件費の支援を行う。必要に応じて、人員派遣、ネパールの他の地域での感染対策支援を行う。

II 国内活動

(1) 東日本大震災支援

震災後10年となる今年度で活動を終了することを見据え、支援を続けてきた気仙沼の地元団体「生活支援プロジェクトK」に短期専門家を派遣する。

(2) 講演会、イベント、啓発活動

- ・北海道NGOネットワーク活動への参加
- ・国際協力フェスタ企画・参加（12月チカホ北3条広場）詳細は未定

講演会や、学校教育機関からの依頼には積極的に対応する。カンボジアやネパール、東日本大震災での活動の経験から、平和の大切さ、地球全体で考える広い視野をもつこと、大量消費や原発依存などの問題に対して北海道に住む私たち自身の生活を見直すことについて発信していく。

(3) 在日外国人への支援活動

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、在日外国人が困難に直面しているケースも報告されている。現在のところ具体的な支援を要する事例はないが、ニーズとできることがあれば理事会にて検討し、予算は災害緊急費用より支出する。

(4) どさんこオープンハウス・ネット懇親会

世話人会にあわせて開催する。新型コロナウイルス感染症が落ちつくまではネット会議の形式で行う。様々な話題を提供し、新たな発見・学びの機会にする。

(5) 会報「どさんこ」・年次報告・ホームページ、ブログ、フェイスブック

年4回の会報と年賀状の発行予定。会員に興味をもって読んでもらえるように、紙面を工夫する。2019年度年次報告を8月に発行する。ホームページ、ブログ、フェイスブックは読者が増えるように、更新、企画を考えていく。